

近代の「美術」と茶の湯

言葉と人とモノ

依田 徹 著

2013年7月刊行

A5判・332頁／定価6,720円(税込) ISBN978-4-7842-1693-2

明治維新で価値を落とした茶道具は、どのようにして美術作品として再評価されるようになったのか？
千利休と岡倉天心に注目し、近代美術史の視点から、明治以降の茶道具の評価を捉え直す。
美術作品と茶道具の境界線を問う、革新の一書。

内容目次

序 論 「美術」と茶の湯

「美術」と「工芸」のはざま / 「名物記」と「伝来」
／ 東京と京都の茶の湯

第1部 茶道具評価の変容

第1章 日本美術史における茶の湯

美術史言説における茶の湯 / 造形論と「わび」 / 茶
人の審美観

第2章 文化財指定と茶道具

—「美術」と趣味世界の境界—
旧国宝陶磁器における中国・朝鮮と日本の差 / 指定制度
における茶碗と茶入の差異 / 茶室・釜・茶掛に見る文化
財の領域

第2部 茶の湯の文化価値の創出

第3章 明治期の文化論と茶の湯

—西洋文化と東洋文化の相克—
欧米人の見た日本文化—モースとフェノロサー / 夏目漱
石の抹茶趣味批判 / 岡倉覚三と日本文化論

第4章 『茶の湯』の成立と構造

—岡倉覚三の美術論との関係から—
岡倉覚三と茶の湯 / 『茶の本』の成立と構造 / 「不
完全」と「美への殉教」

第3部 理論整備と作家制作

第5章 「美術」と「茶の湯」の仲立ち

—今泉雄作と陶磁器研究会の茶道具論—
今泉雄作と陶磁器研究の草創期 / 今泉雄作と高橋義雄の
茶道具論 / 陶磁器研究会の茶道具論

第6章 「美術」作家による茶道具制作

—大正期の板谷波山と香取秀真—
板谷波山の茶陶 / 香取秀真の茶の湯釜 / 茶道具制作
と東京美術学校

第4部 茶道具の「美術作品」化

第7章 近代の千家道具

—千家と楽焼・永楽焼—

千家道具と博覧会 / 楽焼と「美術」 / 永楽家と千家像

第8章 茶碗イメージの変遷

—《不二山》《卯花塙》《大黒》—
本阿弥光悦と《不二山》 / 桃山陶磁と《卯花塙》 /
利休論と《大黒》

第5部 「芸術家」利休の誕生

第9章 日本美術史における茶入

—小堀遠州・松花堂昭乗から千利休へ—
「美術」と小堀遠州の意匠 / 松花堂昭乗の茶道具と絵画
／ 長谷川等伯と千利休

第10章 『茶の本』の影響

—利休再生と美術論—
昭和初期における利休像の再生 / 昭和期の陶磁器論と
「不完全」の美 / 戦後における茶道論と「生の術」

第11章 戦後の茶道具論

—定式化と懐疑—
戦後の美術史 / 茶道具の公開と研究 / 茶の湯の歴史
の体系化 / 「伝統」と「前衛」

結 論 言葉と人とモノ

総括 / 日本美術における茶道具の特異性 / 茶道具論
の特徴 / 「美術」の役割 / 課題と展望

付表：総合年表・茶道具文化財指定年表

よだ・とおる…1977年、山梨県生まれ。東京芸術大学大学院美術研究科芸術学専攻、博士後期課程を修了。美術博士。元さいたま市大宮盆栽美術館学
芸員。日本近代美術史、茶道史を専門とし、主な論文に「日本美術史における茶の湯」(『國華』1292号、2003年)、編著に『十三松堂
茶会記—正木直彦の茶の湯日記—』(宮帯出版社、2013年)など

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注 文 票

発 行 : 思 文 閣 出 版

(京都 取引コード 3402)

冊 数	冊	近代の「美術」と茶の湯 言葉と人とモノ 本体6,400円(税別) ISBN978-4-7842-1693-2				
お 名 前		tel				
		e-mail				
ご 住 所	〒					
送本方法	☐ 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) ☐ 代 引(書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				本書HPのQRコード	書店番線印

本書HPのQRコード

書店番線印

野村得庵の文化遺産

野村美術館学芸部編

野村美術館設立30周年記念出版。野村證券を中核とする野村グループの創始者・野村徳七(得庵)の文化活動に焦点を当て、各分野の第一人者が論文集の形でまとめる伝記。1951年発行の『野村得庵』全三巻以降新たに発見された史料や最新の研究動向をふまえ、新たな得庵像を提示する。図版多数。

▶A5判・470頁／定価 3,150円

ISBN978-4-7842-1701-4

近代茶道の歴史社会学

田中秀隆著

「伝統文化とは近代に自己変革に成功した文化である」との近代茶道史テーマにもとづき、近代国家の文化的アイデンティティの生成構造面から、茶道が日本の「伝統文化」として認知されるようになった過程を考察する。

▶A5判・454頁／定価 6,825円

ISBN978-4-7842-1377-1

復活！不味公大圓祭

逸翁美術館編

小林一三が愛した大名茶人・松平不味(逸翁)が最も愛した大名茶人である、第7代目出雲松江藩藩主松平不味。昭和29(1954)年に阪急百貨店の古美術街をあげて開催された「不味公大圓祭」で出品された作品を中心に、不味遺愛の名品である「雲州蔵帳」収載の名品、及び逸翁が収集した不味作品をカラーで収録し、逸翁の茶道観に迫る。

▶A4判・84頁／定価 1,050円

ISBN978-4-7842-1685-7

＊茶の湯文化と小林一三

逸翁美術館編

阪急東宝グループを起し、明治・大正・昭和の実業界で活躍した小林一三。また「近代数寄者」として確かな審美眼で収集された膨大なコレクションは、その遺志で逸翁美術館に受け継がれた。本書では、小林一三(逸翁)の世界を「茶道との出会い」「逸翁の茶懐石」「逸翁と茶友」「逸翁の茶道観」「逸翁の愛した茶道具」にそって紹介。

▶A4判・148頁／定価 2,000円

ISBN978-4-7842-1485-3

＊茶道と恋の関係史

岩井茂樹著

「恋は茶道の精神に反する」とされた一谷崎潤一郎の随筆にある興味深い一節をきっかけに、恋歌と茶道の関係を茶書や茶会記に探る。茶会の掛物のほか、茶道具の銘に隠された「恋」を紹介し、なぜ恋歌が問題となり、また使われることもあったのかを明らかにする。【目次】茶書中に見られる恋への言説／恋の茶会／銘の世界／恋とは何か？

▶A5判・232頁／定価 3,990円

ISBN4-7842-1313-9

＊建築史論聚

中村昌生先生喜寿記念刊行会編

日本建築の歴史的伝統を深く把握してこそ、新しい時代の建築を創造できるとした建築史学の泰斗・中村昌生氏(京都工芸繊維大学名誉教授)の喜寿を記念し、薫陶を受け研鑽を重ねてきた研究者たちがオリジナル論文を持ち寄り、寺社建築／茶室／建築生産史／都市史／近代建築についての15篇。

▶A5判・590頁／定価 9,450円

ISBN4-7842-1202-7

岡倉天心の比較文化史的研究

清水恵美子著

ボストンでの活動と芸術思想 明治時代に美術分野で活躍した思想家・岡倉覚三(天心)の、ボストンでの活動に焦点をあてて考察し、固定化され流布されている「岡倉天心」像を再検証する。著者がアメリカで行った文献資料調査により発見した新出資料を駆使し、当時の文化的状況や美術・演劇など複眼的な視座からのアプローチを通じ、より立体的な解釈を試みる。

▶A5判・548頁／定価 11,235円

ISBN978-4-7842-1605-5

京都 伝統工芸の近代

並木誠士・清水愛子・青木美保子・山田由希代編

京都における、他の地域とは異なる側面を有する「近代」にあつて、美術・工芸がどのような変容を上げて現代にいたっているのか。大きく「海外との交流」「伝統と革新」「工芸と絵画」「伝統工芸の場」の視点から、様々なトピックスや人物にまつわるエピソードを取り上げ概観する。

▶A5判・300頁／定価 2,625円

ISBN978-4-7842-1641-3

講座 日本茶の湯全史 [全3巻]

茶の湯文化学会編

茶の湯文化学会創立20周年記念出版。中世から近代までの茶の湯を通覧する、まったく新しい概説書。時代を輪切りにしながら見る本編と、茶の湯の重要な要素を通史として見渡す特論から成り、各巻には時代別の概説と研究の手引き、参考文献を掲げ、研究課題を提示することで深く茶の湯研究を志す人にとってハンドブック的要素も持たせる。

▶46判・平均330頁／各定価 2,625円 《第2巻は2013年秋刊行予定》

近代数寄者のネットワーク

齋藤康彦著

茶の湯を愛した実業家たち 高橋義雄、根津嘉一郎、小林一三など、近代実業家と茶の湯に関わる単なるエピソードの紹介ではなく、従来顧みられなかった茶会記録である『茶会記』のデータ分析を通して政界・官界・実業界を横断するネットワークを描出する。

▶A5判・308頁／定価 4,200円

ISBN978-4-7842-1603-1

一茶会記をひもとく一逸翁と茶会

逸翁美術館編

逸翁(小林一三)は、箕面有馬電気鉄道(後の阪急電鉄)を起業した40代前半頃、茶道の師となる表千家の生形貴一宗匠と出会い、本格的に茶人としての道を歩み始める。茶の湯との出会いや、近代数寄者としての歩みを、残された茶会記をひもとくしながらオールカラーで明らかにしていく。

▶A4判・92頁／定価 1,050円

ISBN978-4-7842-1626-0

萬象録 高橋簪庵日記 [全9巻]

大濱徹也・熊倉功夫・筒井統一校訂

“近代茶道鼓吹の第一人者”とされた高橋簪庵。本書は、その簪庵が記した明治45年5月から大正10年6月までの日記である。政治・経済・文化・美術・芸能など多岐にわたる事柄、更には斯界人との交流を綴った一大メモワール。最終巻には解説・総索引を付す。

【最終巻 未刊】

▶A5判・平均450頁／既刊(8冊) 揃定価 69,300円

＊近世京焼の研究

岡佳子著

桃山時代から江戸時代末まで京都で焼かれた焼き物の窯業的な変遷を、文献史料と出土資料によって明らかにし、そこに野々村仁清・尾形乾山・奥田頼川・仁阿弥道八など京焼の名工たちの生涯と作品を位置づけ、近世京都の特質を明確にした。陶業の技術の系譜や産業的な展開、受容層のあり方などの視点から京焼の通史を見直した一書。

▶A5判・434頁／定価 6,615円

ISBN978-4-7842-1558-4

近代日本における書への眼差し

高橋利郎著

日本書道史形成の軌跡

毛筆で書かれた肉筆の文字資料が、近代に「書」として位置付けられていく過程を、書道史に関する出版をはじめ、宝物調査や展覧会の列品、文化財関連の法令から探り、近代における書道史形成の軌跡をたどる。近代数寄者が私的に書跡を鑑賞する場についても考察し、彼らを取り巻く文化環境を総合的に論じる。

▶A5判・304頁／定価 5,040円

ISBN978-4-7842-1595-9

文人世界の光芒と古都奈良 大和の生き字引・水木要太郎

久留島浩・高木博志・高橋一樹編

近代奈良において水木要太郎(1865-1938)により形成された水木コレクションを主な分析素材とし、日本史・考古学・建築史・国文・美術史・地理学等にわたる学際的な一書。多岐にわたるコレクションの形成過程や収集意図のもつ歴史的意義を解明。国立歴史民俗博物館での共同研究の成果。

▶A5判・508頁／定価 8,190円

ISBN978-4-7842-1481-5

近代京都研究

丸山宏・伊徒勉・高木博志編

歴史都市・京都は、近代に大きく変わったまちであった——。近代の京都には研究対象になる豊富な素材が無尽蔵にある。本書は、京都という都市をどのように相対化できるのか、普遍性と特殊性を射程に入れながら、近代史を中心に分野を超えた研究者たちが多数参加し切磋琢磨した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代京都研究」の成果。

▶A5判・628頁／定価 9,450円

ISBN978-4-7842-1413-6

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。